

# 富山県の河川で採捕されたアユにおける 冷水病菌検出頻度の季節変化

## 研究分野

水産資源を増やす

## ねらい

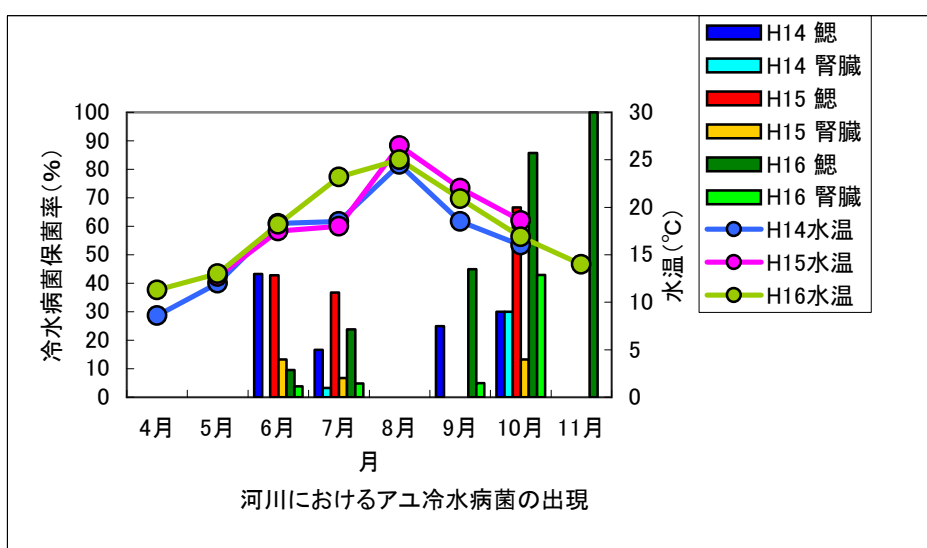
- ・ 近年、富山県においてアユ冷水病が蔓延し、アユ資源に多くの被害が発生しています。冷水病の被害を軽減するためには、富山県内における冷水病の実態を把握することが重要です。
- ・ そこで河川で採捕されたアユについて冷水病の保菌状況および冷水防菌の季節別出現状況について調べました。

## 成果

- ・ 産卵親魚からは高い割合で冷水病菌が検出されたのに対して、仔魚からは全く冷水病菌は検出されず、遡上期稚魚についても多くの個体で冷水病菌は検出されませんでした。これらの結果から、アユ冷水病は親魚から卵内への感染は低いと考えられ、冷水病菌が検出された一部の天然稚魚は河川へ遡上後に冷水病に感染したものと考えられました。
- ・ 遡上期以降、冷水病菌は6月から7月に検出されましたが、8月には検出されなくなりました。その後、9月から11月の産卵期には再び冷水病菌が検出されるようになり、それらのアユには穴あき症状や胸鰭基部の出血など冷水病に特徴的な症状が見られました。
- ・ これらの結果から、アユ稚魚は河川へ遡上後に冷水病に感染し、水温が上昇する夏季に冷水病菌の活性は抑えられるが、産卵期には水温低下や成熟・産卵行動によるアユの体力・免疫力の低下により、再び冷水病に感染・発病するものと考えられました。

## 活用

- ・ 冷水病の蔓延防止対策を講じるための基礎知見として活用される。



研究実施期間 平成13年度～平成18年度  
問い合わせ先 富山県水産試験場(076-475-0036)